平成 24 年 10 月 14 日
NPO 法人 **四季の森里山研究会**
渡部　公　　谷川　克
角田　猛雄　溝田　幸和

『種(ﾀﾈ)の旅立ち』

秋は「実りの秋」と言われるように、各種植物は実を付けて種の繁殖を図る季節です。
動けない植物はタネを運ばせる相手にねらいを定めて、それぞれに工夫や仕掛けを凝らしてタネは旅立ちます。この時期に見られるタネと［旅するタネの工夫と戦略］を見てみましょう。

１．植物はどのようにしてタネを散布するか

⑴風に乗る（風散布）

タネで仕掛けをすれば風が適当に運んでくれるので、沢山タネを作る。

① タネに綿毛をつけたもの　　タンポポ、センニンソウ、ノアザミ、ススキ・オギ、ヨシアザミ、ガガイモ、ヒヨドリソウ

② 回転翼をもつ　イロハモミジ、イヌシデ、アキニレ、ウツギ、シナサワグルミ、オニドコロ・ヤマノイモ

葉っぱごと飛ぶ　ケヤキ、ボダイジュ

③ 微細なほこり状のタネ　シラン

⑵水に運ばれる（水散布）

水はタネを水辺に運ぶ、コルク質や空気室を持ったタネは水辺にたどり着く。

ハス、キショウブ、ジュズダマ

⑶自力ではじける（自動散布）

・乾くと繊維が縮む力を利用してはじける。　・細胞が水を吸ってふくれる圧力を利用する。

フジ、オシロイバナ、ツリフネソウ、スミレ、ツルマメ、ツユクサ

⑷動物や人にくっつく（動物散布）

動物や人の腰の高さに伸び枯れて立っていて、くっつくチャンスを待つ

ヌスビトハギ、ミズヒキ、イノコヅチ、キンミズヒキ、チカラシバ、オオバコ、センダングサ

⑸鳥や獣に食べられて運ばれる（被食散布）

鳥がタネの周りの実を食べてタネも一緒に運ばれる。獣は地面に落ちて臭いを放つ実を食べて、タネも一緒に運ばれる。

・鳥　ヤマグワ、コブシ、ヨウシュヤマゴボウ、ナンキンハゼ、アカメガシワ、マユミ
ゴンズイ、ニシキギ、カラスウリ、アオキ

・獣　ヤマモモ、ヤマボウシ、アケビ、ケンポナシ

⑹哺乳類や鳥が運んで貯える（貯食散布）

リス・ネズミ類や一部の鳥が冬の食糧に運んで埋め、食べ残されて芽を出す

オニグルミ、エゴノキ、ムクロジ、ヤブツバキ、ドングリ類

⑺アリに運んでもらう（アリ散布）

おまけつきのタネを作り、アリに運ばせてタネを落としてもらう

ホトケノザ、カタクリ、クサノオウ、タケニグサ、スミレ　　以上

次回の自然観察会　<u>１１月１１日（日）午後１時～</u>　『**ドングリの不思議**』　お楽しみに！